



公益財団法人 民際センター
2016 年度 活動報告

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日



目次

基礎教育奨学金事業／高校教育奨学金事業／特別教育奨学金事業	1
中学校校舎建設事業／女子寮建設事業／書籍普及事業／図書施設整備事業／学校教材支援事業	2
生徒教材支援事業／自転車支援事業／教師修士留学事業／少数民族教師養成事業	3
給食普及事業／コンピューター教室事業／研修視察事業／インターネット・フレンドシップ校交流事業	4
民際力事業／補足	5
海外事業費 国別内訳	6
わたしたちのポリシー	7

基礎教育奨学金事業

対象国：ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム

事業内容：小学生、中学生への奨学金支援

各国の奨学生数

提供年度	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	合計
寄付の締切日	2017/3	2016/9	2016/9	2016/3・7	2017/3	
平成 25 年度	4,061	4,316	1,428	109	166	10,080
平成 26 年度	3,048	3,951	1,382	251	277	8,909
平成 27 年度	2,477	3,738	1,277	364	441	8,297
平成 28 年度	2,246	2,978	1,353	405	602	7,584

5カ国の奨学金数の合計数が数年にわたって年1,000人ずつ減少していたのが、ここ2年間約700人の減少になり、減少幅が小さくなった。平成28年度はベトナムが微増、ミャンマーは161人増えているが、ラオスが760人減少した。ラオスの大幅減少については、27年度から奨学金が1万円から14,400円にシフトしたため、1万円で支援している奨学生が卒業したのを機に支援をストップした支援者が少なくなかったことが影響していると思われる。しかし、同じ条件でカンボジアは微増しているので、あるいは別の要因があるのかもしれない。AC Japanの広告は28年7月にスタートした。その広告効果を少しでも大きくするため、ラオスとカンボジアは締め切りをなんとか2ヶ月程度延長したが、広告期間が2ヶ月だったため（概況でも述べたとおり）その効果は十分反映されなかった。

収入：103,757,028円

支出：103,813,483円

高校教育奨学金事業

対象国：タイ、ラオス、カンボジア

事業内容：中学校を卒業した奨学生に、高校または職業訓練校も奨学金を継続して提供する事業で、タイでは以前から実施しており、平成28年度は33名に提供した。ラオスでは4名、カンボジアに1名にも試験的に提供した。

収入：993,750円

支出：997,713円

特別教育奨学金事業

対象国：タイ

事業内容：バンコク・チェンマイの高校生・大学生を対象とし、平成28年度は支援中の奨学生（高校・大学）70人に奨学金提供の業務を行い、それぞれの就学を支援した。

収入：5,704,171円

支出：5,692,318円

学校施設整備事業

(A) 中学校校舎建設事業

対象国：ラオス

事業内容：平成26年度より校舎建設を小学校から中学校にシフトしたが、平成28年度は校舎建設の寄付はなかった。一方、中学校の誘致運動に熱心な村に教室を1つずつ建設していく事業では、カムアン県のラオカ村に教室を2つ（中1と中2用）建設した。当初は1教室だけだったが、村人が自発的に協力を申し出、2教室の建設となった。また、別の村ではトイレのなかった中学校にトイレを1つ建設した。

(B) 女子寮建設事業

対象国：カンボジア

事業内容：高校の数の不足ゆえ長時間の通学および治安の悪さから高校就学を諦める女子生徒が少なくない。こうした状況に対し、学校の敷地内に女子寮を建設することで、女子生徒が安心して勉強を続けられるようにサポートするプロジェクト。昨年度同様、平成28年度も2棟が建設された。

収入：7,303,582円

支出：7,315,595円

書籍普及事業

対象国：ラオス・カンボジア、ミャンマー

事業内容：木箱に入った図書セットをラオスの学校に提供するプロジェクト。平成22年度にラオスで開始した本事業は平成26年度からカンボジアも支援対象とした。平成28年度はラオス100セット、カンボジア15セットを提供。特例として、図書の購入を希望する、幼稚園児から大学生まで学ぶミャンマーの僧院に12万円のご支援があった。

収入：4,295,000円

支出：4,288,048円

図書施設整備事業

対象国：ラオス

事業内容：学校に図書館を建設するプロジェクト。平成27年度は2棟を建設したが、平成28年度は寄付を得られなかった。ただし、以前に完成した2つの図書館で、図書の補充を重ねつつ読書感想文コンテストを行った。

収入：25,000円

支出：58,227円

学校教材支援事業

④ 学校教材支援事業

対象国：タイ・ラオス

事業内容：学校教育に必要な教材やスポーツ用具を学校に提供するプロジェクト。平成28年度はラオス

84セット、タイ 16セット。特例として、一企業からラオスの中学・高等学校に 10 台のコンピューターを提供した。

収入：967,526 円
支出：2,946,822 円

生徒教材支援事業

対象国：タイ・ラオス

事業内容：タイ・ラオスの奨学生を支援している支援者が、奨学金に加えて消耗品の文具などを贈るプロジェクト。タイは 85 人、ラオスは 103 人の生徒に提供した。

収入：1,504,000 円
支出：1,501,375 円

自転車支援事業

対象国：ラオス・カンボジア

事業内容：遠距離通学の中学生へ自転車および修理道具を贈るプロジェクト。平成 28 年度はラオスの生徒に 53 台、カンボジアの生徒に 41 台を提供した。

収入：1,686,908 円
支出：1,681,660 円

教師修士留学生事業

対象国：ラオス

事業内容：現役の高校教師等を対象に奨学生を公募し、教師用マニュアル作成等に必要の人材育成のため、タイ国立コーンケン大学大学院の修士課程に 3 年間留学させるプロジェクト。これまで 28 名の卒業生を輩出。在学中の 2 名が卒業する平成 30 年度で事業は終了する。

収入：2,800,000 円
支出：2,781,375 円

少数民族教師養成事業

対象国：ラオス

事業内容：少数民族出身の高校卒業生が教師養成短大で 2 年間寮に暮しながら勉強し、教師免許の取得を支援するプロジェクト。卒業後は出身村の小学校の教師となり、独自の言語を持つ少数民族が住む地域の教育の質の向上を図る。平成 28 年度は在学学生 31 名、新入生 33 名に奨学金を提供した。

収入：9,565,000 円
支出：9,552,637 円

給食普及事業

対象国：ラオス

事業内容：平成 25 年度に 3 年後の自立を目指して 3 校でランチ提供をスタートしたが、現在まで自立するほどの農産物を生産できていない。平成 28 年度も農産物の生産の増大を図るため、農業専門家からトレーニングを受けたり、タイの中学校を視察したり、村人のより一層の協力を得るため運動会を開催したりした。また、水が不足しがちなポンサイ小学校の池を拡大するため、在ラオス日本大使館に補助金の申請を行った（結果は平成 29 年 9 月頃に判明）。

収入：3,000,000 円

支出：2,984,605 円

コンピュータ教室事業

対象国：ラオス、ミャンマー

事業内容：ラオスの学校にコンピューターを提供してコンピューター教室を開催し、生徒のコンピューター操作やソフト開発の能力向上を目的とするプロジェクト。平成 26 年度に 2 校でコンピューター教室を開設して基本操作は学習したが、平成 28 年度は次の段階のプログラムが用意できなかった。一方、日本語交流を目的にミャンマーの中学校にコンピューターを寄贈し、ミャンマー事務局スタッフが日本語指導を行った。

収入：2,211,624 円

支出：2,196,767 円

研修視察事業

対象国：タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマー

事業内容：旅行会社との提携等による 5 カ国教育現場の視察プログラム。旅行会社との提携による研修旅行以外に、支援者の依頼に応じて教育支援現場の村に泊まって交流したり、校舎の贈呈式に参加したりする旅行を行った。

収入：3,474,994 円

支出：3,479,632 円

インターネット・フレンドシップ交流事業

対象国：タイ

事業内容：インターネットを通じて日本とタイの学校が 1 対 1 で交流する事業。平成 28 年度は日本タイ各 45 校が参加した。7 月には 7 校から 8 名の教師が交流相手のタイの学校を訪問。8 月は参加校の先生が一同に会する全国会議を東京で開催。10 月は日本の先生がタイの交流相手校へ、またタイの先生が日本の交流相手校を訪問して交流を深めた。

収入：4,309,877 円

支出：4,306,437 円

事業内容：1口1,000円から民際センターの活動をサポートいただくプログラム。また、平成29年に30周年を迎えるにあたり、組織強化を図るための特別寄付をお願いしたところ、通常の寄付に加えて30周年寄付が2,754,377円集まった（この分は平成29年度に繰越し）。

収入：1,755,847円

支出：1,757,613円

【補足】

1. 私の特別教育基金寄付

寄付の運用益、または運用益と元本の両方を支援者の意向に沿った事業に末永く活用する「私の特別教育基金」では当期、合計2,000,000円の寄付の入金があり、平成28年度はラオス少数民族教師養成事業に活用された。

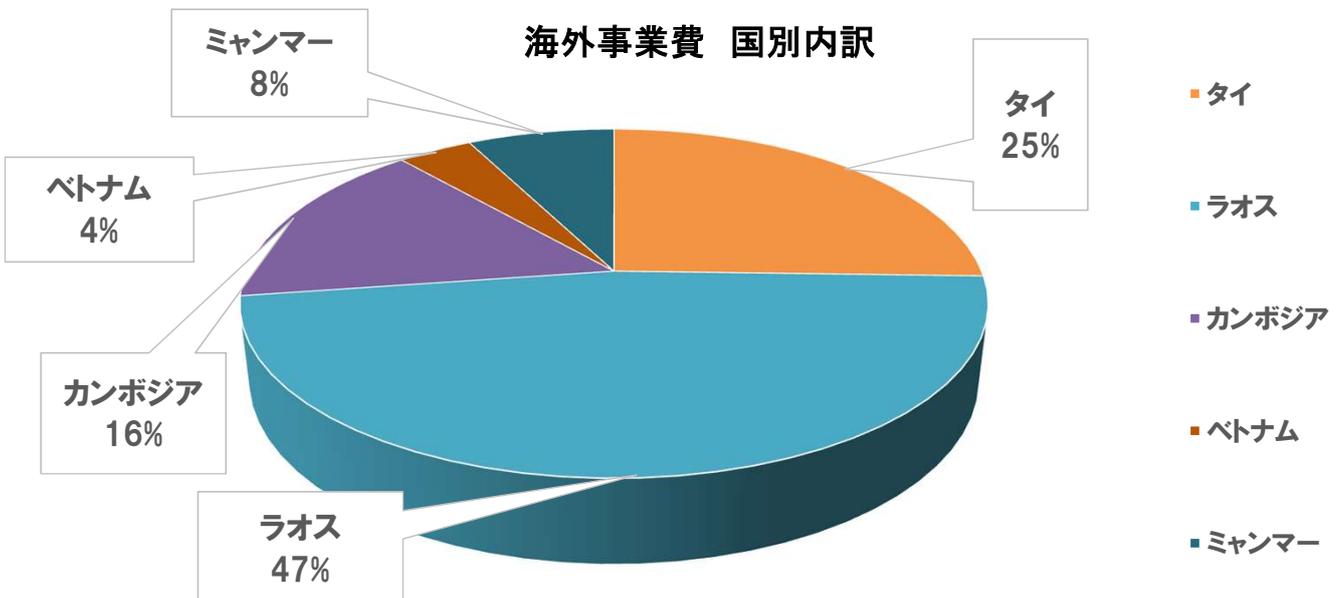
2. プロジェクト全般寄付

状況や必要性に応じて奨学金事業以外の様々なプロジェクトに活用されるプロジェクト全般寄付。平成28年度は、合計1,465,987円の寄付収入があり、29年度に繰り越してラオスの教室建設事業とカンボジア女子寮のトイレ建設に活用する予定である。

海外事業費 国別内訳

2016年4月1日から 2017年3月31日まで

科 目	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	合計
海外事業費						
教育基盤事業						
- 教育普及事業						
基礎教育奨学金事業	24,136,070	27,946,704	12,848,997	4,326,385	6,562,916	75,821,072
高等教育奨学金事業	620,000	80,000	76,800			776,800
特別教育奨学金事業	2,560,118					2,560,118
- 教育環境事業						
学校施設整備事業		2,182,409	3,728,483			5,910,892
書籍普及事業		2,920,000	420,000		91,985	3,431,985
図書施設整備事業		58,227				58,227
学校教材支援事業	240,000	2,237,371				2,477,371
生徒教材支援事業	527,280	642,720				1,170,000
自転車支援事業		834,750	604,673			1,439,423
- 教育内容拡充事業						
教師修士留学事業		2,450,000				2,450,000
教師養成事業		8,386,181				8,386,181
学校コミュニティー支援事業						
給食普及事業		2,625,000				2,625,000
調査研究事業						
調査研究事業					1,810,163	1,810,163
啓蒙啓発事業						
研修視察事業	349,444	2,452,977				2,802,421
合 計	28,432,912	52,816,339	17,678,953	4,326,385	8,465,064	111,719,653



わたしたちのポリシー

支援者の皆さまとともに 私たちは、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに教育支援をしたいというドナーの皆さまの想いを真摯に受けとめ、子どもたちの教育支援を行います。また、支援を受けた子どもたちの想いや成果を、支援者の皆さまに伝えることにより、1対1でつながる顔の見える支援を基本に、支援者の皆さまに支援の手ごたえや喜び、支援する子どもたちと繋がっている実感、ひいては生きがいを感じていただくことに全力を尽くします。

■ 受益者(子どもたち)とともに

私たちは、先進国の目線で途上国を助けるという発想に立脚するのではなく、受益者、すなわち、子どもたちがその国の文化や風土を尊重した教育を受け、自立できる環境をつくることを目指します。政治的・宗教的背景による価値観の押し付けではなく、支援を受ける子どもたちのニーズに即し、彼らが自力で将来を切り開くために必要な教育支援を実施できるよう全力を尽くします。

■ 時代・社会とともに

環境問題や社会問題が顕在化し、時代が大きく変化する中で、私たちは常に新しい国際貢献のあり方を模索していきます。私たちが行っている活動は特別な人による特別なことではないという考えに立ち、広く多くの人に支援の必要性を伝え、理解・共感していただくことを目指します。そして、たくさんの市民の力によって、全ての子どもたちが教育を受けることのできる世界づくりに全力を尽くします。

公益財団法人 民際センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F

TEL 03-6457-5782 FAX 03-6457-5783

info@minsai.org www.minsai.org

